



古府っ子

令和5年度 3月号
高岡市立古府小学校
学校だより
令和6年2月26日

児童から児童へ 受け継がれる古府小の伝統

校長 矢田 憲和

「2月は逃げる」ように過ぎ、間もなく3月になろうとしています。しかし、気温の低い日が続き、校庭の桜の冬芽もまだ固く、春の訪れはしばらく先ようです。一方で、6年生教室の「卒業まであと〇〇日」の掲示は日一日と数が減り、学校を巣立つ日は着実に近付いてきていることを感じさせられます。

去る21日に児童会引継式を行いました。6年生の各委員長から5年生の代表へ、委員会活動の記録を綴ったファイルが手渡されました。6年生はちょうど1年前に、同じようにファイルを引き継ぎ、先輩を手本としながら自分たちのアイディアを加えて委員会活動を発展させてきました。そのおかげで古府っ子みんなの学校生活がとても充実したものになりました。また、縦割り掃除や集団登校の班長の役目も5年生へバトンが渡されつつあります。6年生のアドバイスをもらいながら掃除の反省会を進行する5年生の姿からは、6年生の優しさと古府小の最高学年となる5年生の気概が感じられます。

5年生は4年生へと「二上山の賦」の舞を引き継ぎました。40年以上前に創られたこの舞は、代々5年児童が4年児童に教えることで長きにわたり続いてきました。練習の様子は先日高岡ケーブルテレビで取り上げられ、ご覧になられた方も多くでしょう。(まだの方は、右のQRコードからご覧ください。少し読み込みに時間がかかります。番組開始5分後からです)インタビューで4年児童は「今まで鳥役になるのに憧れていた」、5年生は「これからもきれいに踊って受け継いでいってほしい」と答えていました。練習は今も毎日続けられ、朝休み、長休み、そして昼休みも「たーまーくーしーげー…」の曲が流れてきます。あまりに繰り返して流れてくるので、曲が耳にこびりついて離れません。それくらい5年生は熱心で、4年生もその思いに応えるかのように一生懸命に練習しています。保護者の方の励ましや担任、指導教員による声掛けがあったのですが、なぜそこまで自主的に練習できるのか感心するとともに、不思議に思っていました。先日休み時間の練習を見に行ったとき、その秘密が分かったような気がしました。1年生が練習を見て、見よう見まねで踊っていたのです。整然と歩く集団登校も、黙々と行っている縦割り清掃も、上級生の背中を見て下級生は学び、自然によき伝統が受け継がれていく、教員の指導を超えた古府小児童のたてのつながりの大きさ、よさを感じました。



4・5年生を手本に動きをまねる1年生

ピンと伸びた腕に憧れの強さを感じます



古府っ子フォトギャラリー(卒業生に向けた取組)

日々の様子は古府小HPをご覧ください→



1年生 クレパスで言葉を書き、色紙で作った花で周りを飾りました。



2年生 言葉を書き、花紙で作った花で飾ると立体感が出てきれいでした。



3年生 2色刷りの版画に卒業に向けたはなむけの言葉を付けました。



4年生 版画の作品に卒業を祝うメッセージを入れました。



5年生 卒業を祝う会に向けて一生懸命出し物や飾り付けの準備をしています。



6年生 委員会引継式で5年へ委員会ファイルを手渡し励ましの言葉を贈りました。